

徳島大学における、
学生と教員と図書館の協力による学習支援

学びサポート企画部

徳島大学 工 学 部 3年 上村 菜月
徳島大学 総合科学部 2年 枝川 恵理
徳島大学 工 学 部 1年 片山 裕之

はじめに...

大学教育において、近年は学生の主体的な学習を促進することが強く叫ばれており、学習環境の整備も課題の1つとして挙げられる。このような背景のもと、附属図書館に学生の自学スペースやグループ学習を行うラーニング・コモンズを整備する大学が増加している。徳島大学でも2012年にラーニング・コモンズを設置した。
本発表では、徳島大学で学習支援活動を行う学びサポート企画部がこれまでにやってきた取り組みの概要を説明するとともに、本活動の特色とも言える学生と教員と図書館の協力について報告する。

学びサポート企画部とは？

学びサポート企画部は、大学生の日々の学習における躓きに対する学習支援を行うとともに、学習をするために必要な基本知識・技能を習得する場や機会を創ることで、大学生の学習スタイルの向上、改善を行うという活動理念のもと、主に図書館で学習支援活動を行っている。2014年8月現在、メンバーは学生3名、教員1名、図書館職員3名となっている。

～学習支援～

1. Study Support Space (SSS)

①概要説明

<目的>

教員・大学院生・学生が学習アドバイザーとして、図書館で大学生の学習に関する相談に対応する。

<実施場所> 図書館 1Fピア・サポートルーム

<対応日時> 平日の14:00-19:00

<アドバイザー> 教職員12名、大学院生3名、学部学生1名
(2014年8月現在)

<対応科目>

数学、物理、化学、生物、英語、レポートの書き方、他

②業務内容

<学びサポート企画部メンバーの業務内容>

- ・アドバイザーの候補検討・依頼
- ・アドバイザーとの情報交換・運営課題検討
- ・時間割の作成
- ・広報戦略の検討・広報活動
- ・相談者・相談内容のデータ管理
- ・SSSの効果検証

<アドバイザーの業務内容>

- ・相談者の学習相談に対応
- ・相談内容を「相談者管理シート※」に記入

※相談者管理シートとは、アドバイザーが相談者の学部・学科・学年・相談内容などを記入するシートである。また、相談シートを通じてアドバイザーと学びサポート企画部メンバーが、運営上の課題等の情報交換を行っている。

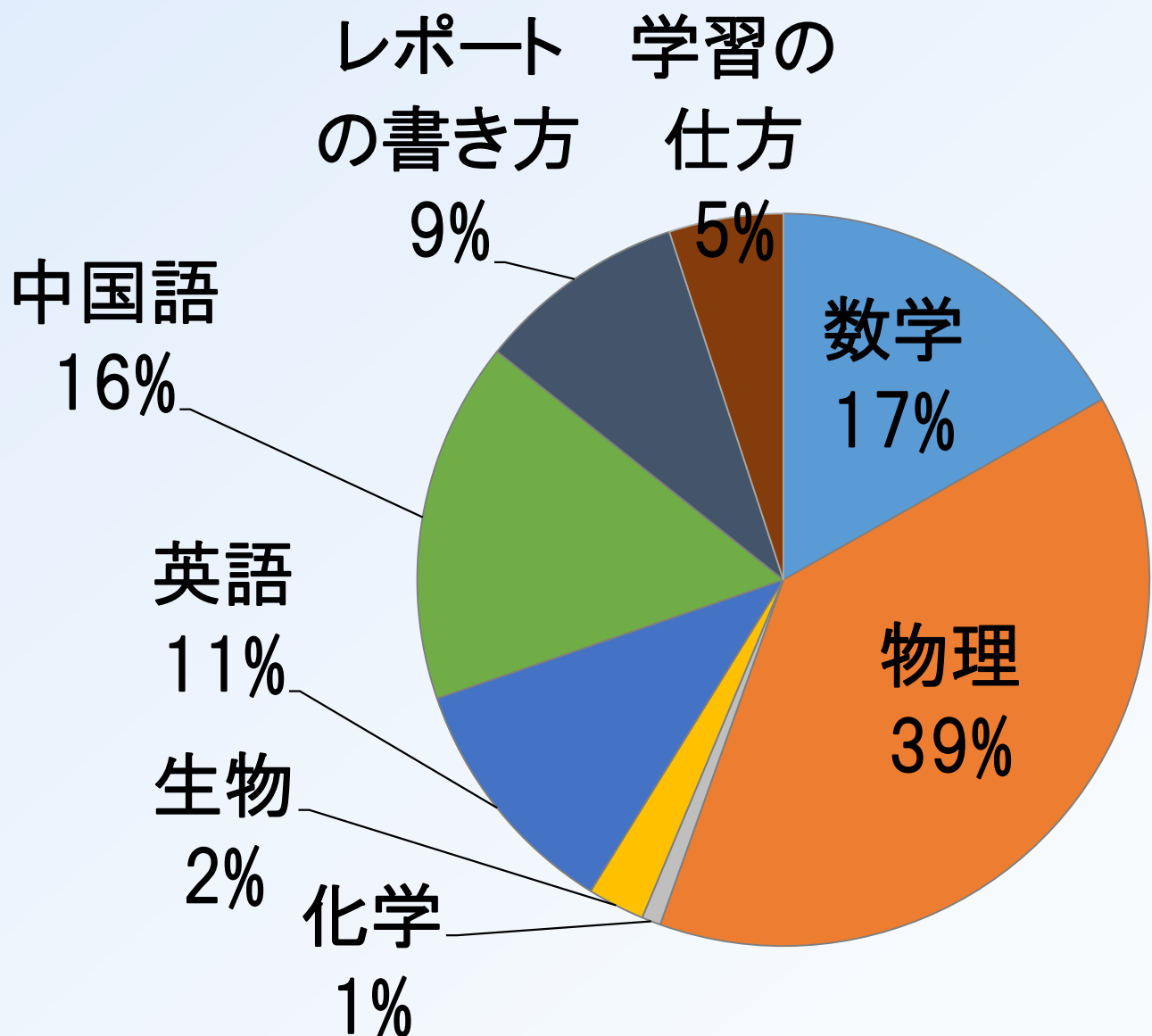
③これまでの実績

<2013年度>

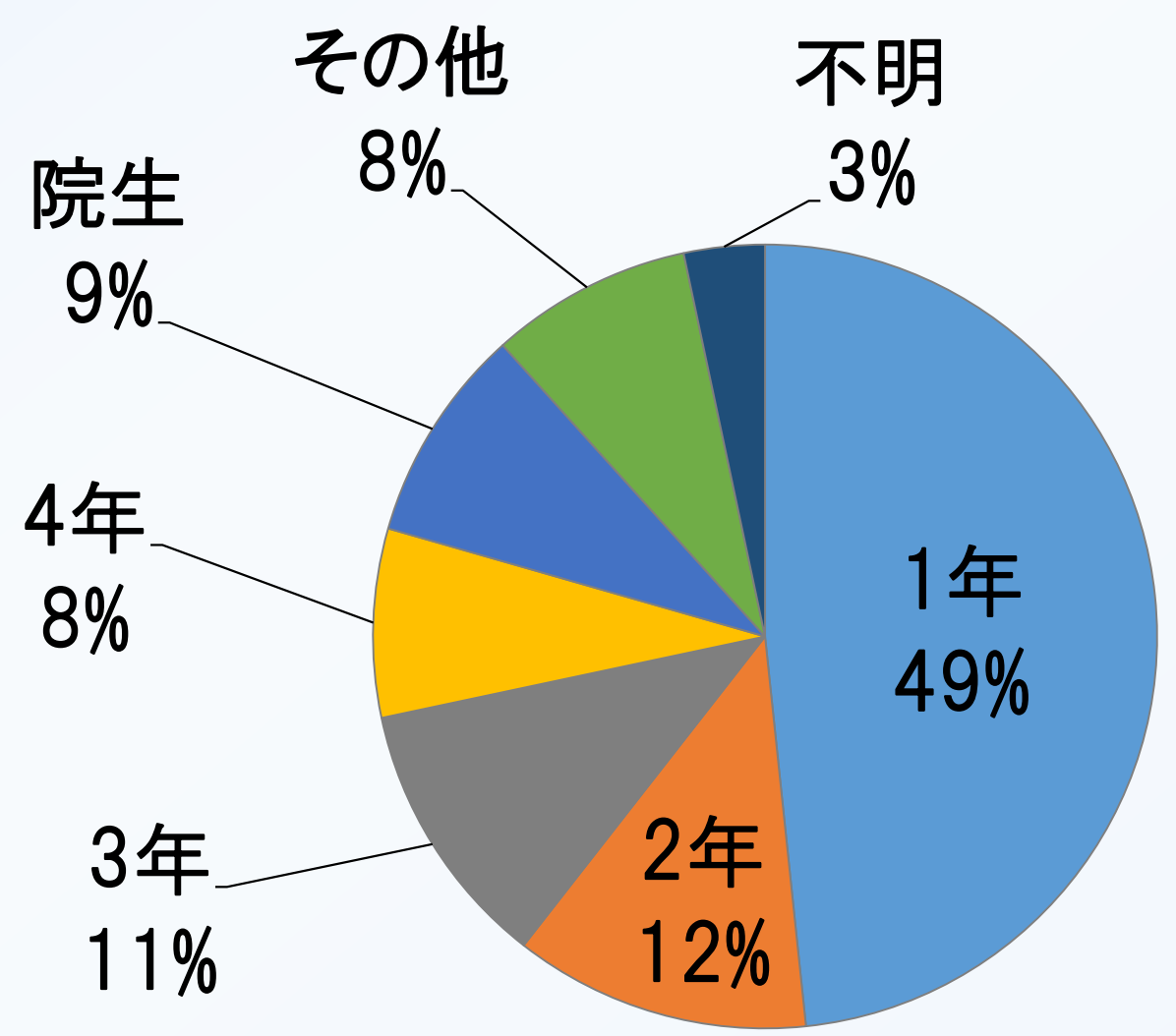
2013年4月から2014年2月まで、授業期間中の平日は毎日実施し、累計相談者数は352名であった。うち、前期は210名、後期は142名であった。

<2014年度前期>

2014年4月から8月まで平日は毎日実施し、累計相談者数は180名であった。また、学習に関する相談は119件であり、学習以外の相談は46件であった。



学習に関する相談内容 (内訳)



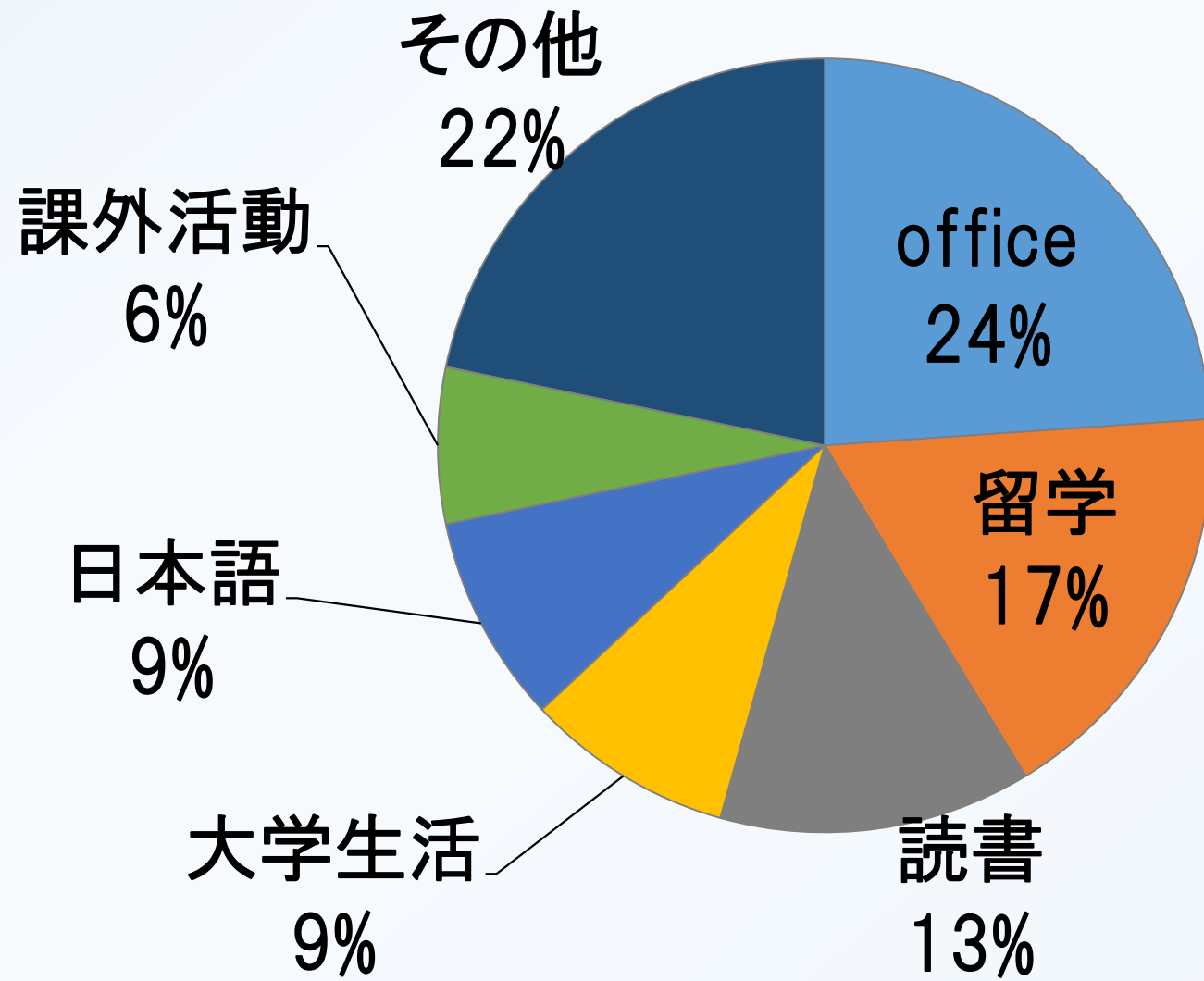
学年別相談者の割合

<相談者の傾向>

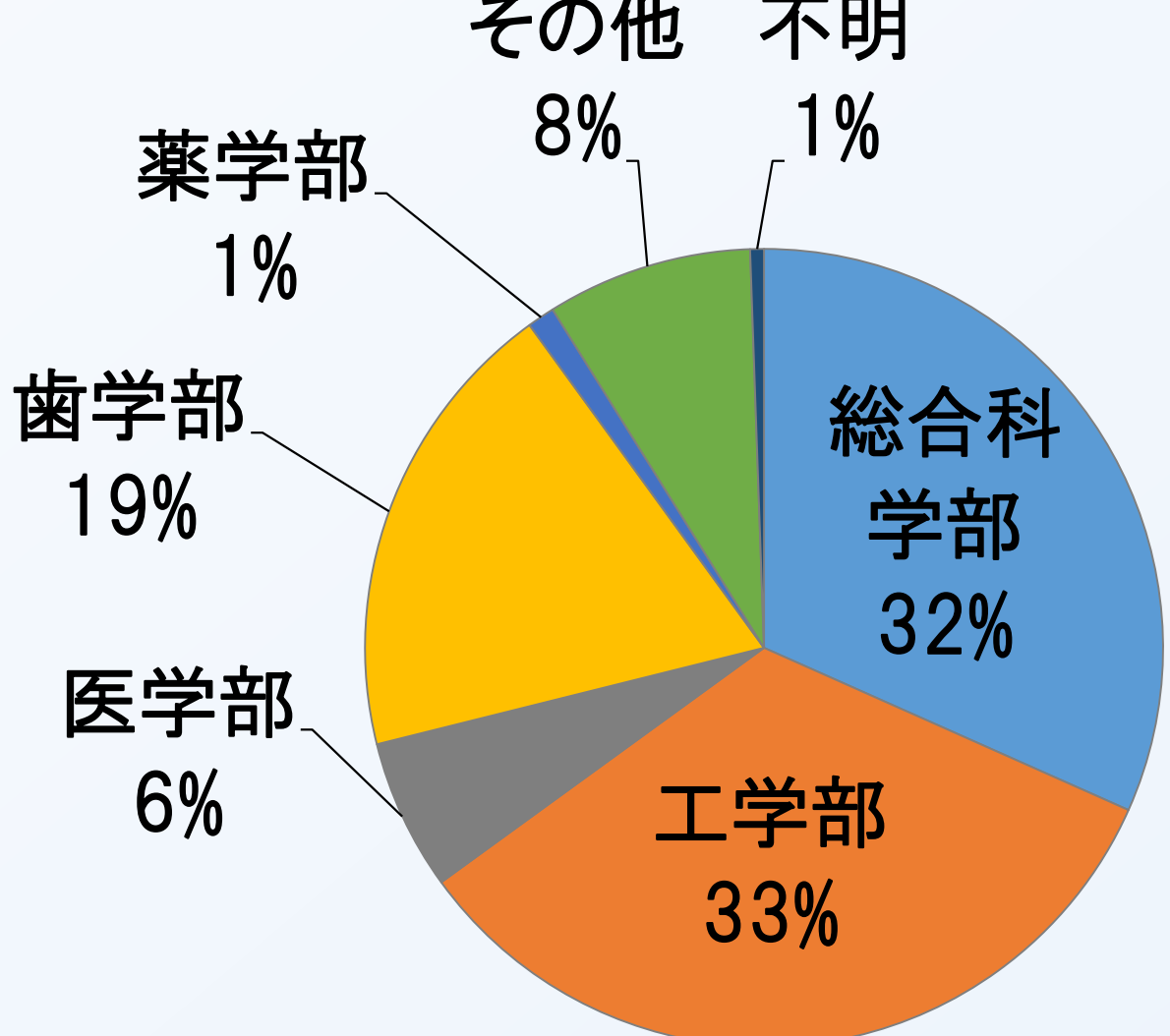
- ・ 1年生や、理系の基礎科目に対する相談者が多かった。
- ・ WordやExcel、PPTなどofficeに対する相談も多かった。

<今後の課題>

- ・ リピーターが多くなっているが、利用していない学生に対してのアプローチが必要である。
- ・ 問題の解き方を教えるだけに留まらないような場にしていく必要がある。
- ・ 学生のニーズに合わせたアドバイザーの確保・時間割の設定・科目配置を考える必要がある。
- ・ 相談者が少なかった科目に関しては、広報戦略（科目名を分かりやすくする等）を検討する必要がある。



学習以外の相談内容 (内訳)



学部別相談者の割合



←SSSを実施している
図書館1 F
「ピア・サポートルーム」

～イベント～

2. レポートの書き方講座

<目的>

レポートを書くときに注意する点を理解し、適切なレポートを書けるようにする。

また、1年生にレポート課題（工学部・歯学部）が出されたため、その対策として実施された。

<実施場所> 図書館1Fグループワークコーナー

<開催日時> 2014年4月21日（月）、4月23日（水） 各17:00～18:00

<講師> 古屋玲先生（全学共通教育センター）

<参加人数> 4月21日：20名、4月23日：9名

<参加者内訳> 1年生24名、2年生2名、3年生2名、4年生1名

<アンケートから分かったこと>

- ・レポート作成時に注意すべき点は理解できたものの、実際正しく書けるという自信を持てた学生は少数だった。
- ・本企画に対する満足度は高かった。
- ・レポートを作成する際の姿勢についてのお話が、強く印象に残ったようだった。



3. 先生のコバナシ～実は私こんなことをしているんです～

「レポートの書き方講座」のアンケートに「先生の研究について知りたい」という意見があった。そこで、普段聞くことのない研究の興味深い点や先生の思いを知り、研究に対して関心を持つきっかけをつくるために実施した。

6月30日（月）

17:00～17:30
佐藤高則先生
「生物と人間の未来」
17:30～18:00
宮本誠吾先生
「空間情報 vs 文字情報」

7月1日（火）

17:00～17:30
眞田純子先生
「農村風景を次世代につなぐ！」

7月2日（水）

17:00～17:30
眞壁和裕先生
「赤や青は数ではありません」
17:30～18:00
藤一樹先生
「いたずらに時を過ごすことの
思い出」

7月3日（木）

17:00～18:00
浮田浩行先生
「3Dプリンタ入門
～はじめての一歩～」

7月4日（金）

17:00～17:30
ヘルベルト・ヴォルフガング先生
「数学、文学、音楽：豊かな人生への創始」
17:30～18:00
古屋玲先生
「家の誕生と人間の進化を語る」

◇ 図書館1階ホールで
行います。（座席数に任せてすぐ）
◇ 申し込み不要です。
お気軽に立ち寄りください！
お問い合わせは
oss-frow2013@gmail.com まで。

先生のコバナシ

～実は私こんなことをしているんです～

“研究”の興味深い点や先生の思いを知り、
“研究”に対して関心を持つきっかけを作ませんか？

Hosted by 学びサポート企画部

<目的>

大学で行われている“研究”について、その内容、興味深いところ、先生の思いなどを知ること、大学における学習や研究に対する動機づけに役立てる。

<企画概要>

徳島大学の教員が日々行っている研究活動についてプレゼンテーションを行う。実施期間の内で1人当たり30分の時間を設定し（必ずしもこの通りではない）、研究内容、興味深い点、取り組み姿勢などを発表する。発表の仕方は指定しない（PPT発表、講演、座談会、フリートークなど）。主な対象者は徳島大学生であり、学生が研究に対して関心を持つきっかけをつくる。また、参加者にアンケートを実施した。



先生の集め方

- ・メンバー間で、話を聞きたい先生や学生から面白いと評判の良い先生を候補に挙げ、協力をお願いした。

学生の集め方

- ・気軽に学生が立ち寄れるような場所と時間を設定した。（目につきやすい図書館1Fホール、夕食時を回避した17:00～18:00）

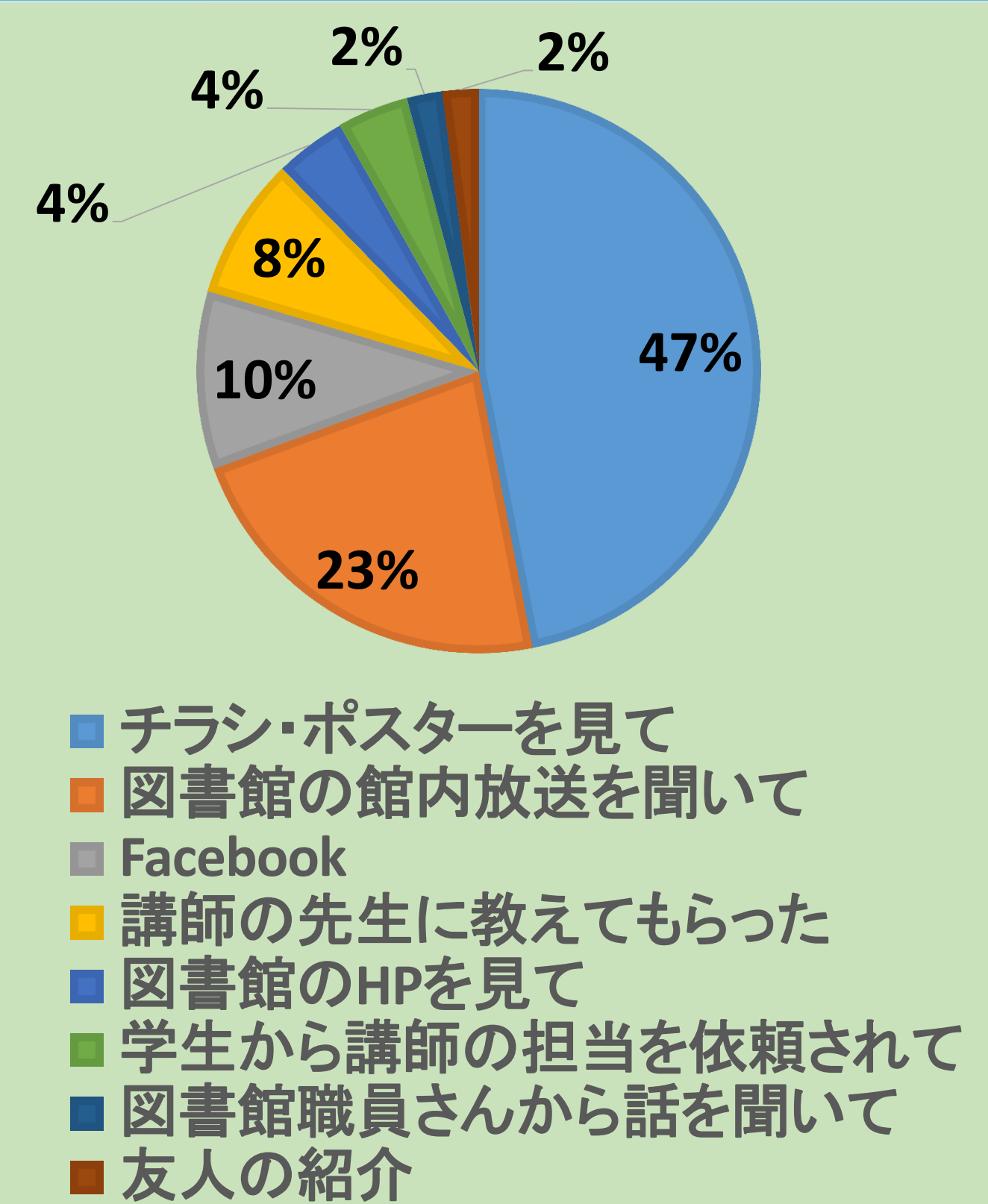
<参加人数>

5日間の累計参加者数：61名（運営スタッフ除く）

<参加者の声（アンケートより一部抜粋）>

- ・先生のやっている研究を今まで知らなかったので興味を持った。
- ・全く知らない分野だったので、話がとても面白かったです。
- ・場の雰囲気固くなかったのが楽しかったです。
- ・文学の話に惹かれました。これから文学の本をもっと読みたいと思います。
- ・垣根を越えて学問をするということの重要性がわかった。

どのようにして企画を知ったのか （複数回答可）



先生のコバナシを終えて

・日がたつにつれ参加者は増えて、最終日には五日間で最も多くの人に参加してくれたので、イベントは成功だったと思う。

・学生や図書館職員、教員の協力なしにはできないということで、本当にたくさんの方々の協力が必要であることを感じた。

・評判がよかったため、学びサポート企画部ではこれからもこのようなイベントを定期的に行うことを検討している。その際は、アンケートで寄せられた「広報をもっとしたほうがいい」「声が聞き取りにくかったので、マイクを使ったほうがよい」などの意見を取り入れてより良いものにしていきたい。

N
E
X
T